

神戸松蔭大学

共学化

ともに拓く、新しい社会

神戸とともに、
新しい共生社会のあり方を問い続けます。

2025年4月、神戸松蔭大学は共学化によって、新しい一歩を踏み出しました。かつてないスピードで進む技術革新、環境問題の深刻化など、変革期を迎える社会の中で、主体的に問題と向き合い、自らの道を切り拓いていく人材を育てるため、大学教育の革新を続けています。「多様性の理解と受容を生かす教育」を柱の一つに掲げ、多様な人々と交流し、自分とは異なる考え方・価値観に触れる教育に力を入れています。性別・年齢・国籍の枠を超えて交流し、誰もが可能性を拓いていくことのできるキャンパスを実現しています。

私たちが長い歴史の中で大切に守り育ててきたのは、学院モットー「一粒のからし種」、



大学モットー“Open Yourself, Open Your Future”で表される、学生たちが自分自身の殻を破って成長し未来を切り拓く力を支援するという理念です。そのうえで、「ともに拓く、新しい社会」を新たな指針に掲げ、多様な人々が協働する豊かな社会を創造する人材を育みます。

神戸の地に「松蔭女学校」を開学して以来130年以上、地域を愛し、地域に生きる人材を育ててきました。2024年4月には「地域連携研究センター」を新たに設立し、地域の課題解決に繋がる活動の情報発信拠点としました。地域振興や子育て支援、国際交流、リカレント・リスキリング教育などさまざまな方向から行政、企業、他大学との協働を進め、本学の資源を有効に活用しながら、神戸とともに新しい共生社会のあり方を提案していきます。神戸松蔭大学は、これからも常に自らを超え、進化する大学であり続けます。

学長 徳山 孝子



2026年、社会のニーズに応じて2学科をリニューアル

文学部 人文社会学科

(2026年4月 日本語日本文学科から名称変更)

日本の文化と社会の本質を理解し、
表現力・発信力を獲得する

『日本文学・文化専攻』に『方言・日本語教育コース』『文学・創作表現コース』『書道コース』を、『メディア社会専攻』に『社会学コース』『メディア芸術コース』を設置。日本語の歴史や方言、日本の伝統的な文化や文学について学びます。正しい日本語のスキルを身につけ、自らの考えを適切に表現し、主体的に発信する力を獲得します。また、社会を動かすメディアについて学び、現代日本の社会現象や文化現象を分析、現代社会の課題についても考えます。



教育学部 教育発達学科

(2026年4月 教育学科から名称変更)

子どもの発達を継続的に学び、
確かな保育・教育力を育成する

『幼児教育専攻』『小学校教育専攻』の2専攻を設置。保育士・幼稚園教諭・小学校教諭、3つの資格・免許の取得が可能です。子どもを取り巻く多様な専門領域の学びを通して、確かな指導力を育み、多様化する保育現場、教育現場のニーズに対応できる人材を養成します。子どもに寄り添い、地域や社会と連携・協働しながら教育現場の課題に対応できるよう、幅広い体験的な教育を通じて人間性の育成を図ります。



(左) 砂川浩慶立教大学社会学部長、(中) 徳山孝子神戸松蔭大学学長、(右) 西原康太立教大学総長

立教大学社会学部と連携・協力協定締結

神戸松蔭大学は、2024年12月17日、立教大学社会学部と連携・協力に関する協定を締結しました。両大学が有する教育研究資源を活用し教育研究の質の向上を図ります。2026年4月に予定する文学部人文社会学科への名称変更を機に、メディア・社会学分野における学術研究や教育活動、人材育成について連携していきます。ゼミ活動を通じた学生交流や特別講義の実施、キャリアプログラムへの参加などさまざまな取り組みを予定しています。

